

第8回城東学園新たな学園づくり地域検討委員会 概要

日 時	平成31年1月18日（金）午後7時 ～ 午後8時10分
場 所	大東北公民館
出 席	委 員 23人（欠席者7人） 事務局 教育長、教育部長、企画政策課長、教育政策室長、教育政策室係長、 教育政策室指導主事、教育政策室主任、教育政策室主事
内 容	
1 開 会 2 教育長あいさつ 3 委員長あいさつ 4 報告事項 第7回地域検討委員会について 5 協議事項 ・城東学園新たな学園づくり地域検討委員会報告書について ・提言内容等の検討 【委員長】 ・報告書（案）をご覧いただきたい。本日は、この内容について確認をしていきたい。 ・分かりやすくすることが大事だと考え、4点に注意した。 教育的な専門用語を使わずに優しい言葉を使用するようにした（例：カリキュラム→教育計画）。 世間一般で言われている情報ではなく、城東学園の情報を入れることを心がけた。 抽象的な文言ではなく、具体的なことを入れた。 一文をできるだけ長くしないようにした。 ・目次については、1の近年の施策、2の本検討委員会、3の提言の後ろに資料を付けているという形になっている。 ・「はじめに」は前は空白だった部分。皆さんで少し黙読をしていただきたい。 ・この検討がこれまでの歴史の流れの中から出ていること、小学校統合ありきではなく、小中一貫教育の推進なんだということを文言にしたほうがよいと思った。最終的には、城東学園の一貫教育が掛川市の中心的な、掛川市教育がより充実するようお願いをこめた。 ・（1～2ページ）掛川市中学校区学園化構想とは、記載のとおり、中学校区を学園と呼び、保幼小中が連携を強化して、一貫性のある教育を進めていくことである。その学園化の歩みが、外部検討委員会による学園化の検討を行う一方、学校の指定研究という形でここ10年ほど進めてきている。 ・（3ページ）掛川市教育委員会が第2ステージ検討委員会からの報告を受け、パブリックコメントや総合教育会議での検討を経て、平成29年に掛川市の小中一貫教育推進基本方針を定めた。8項目の方針の中の一つに、「新たな学校づくりの在り方について、皆さんが集まって検討します。」という文言があり、これに則って本委員会が設置された。 ・（4ページ）この検討委員会の目的は、一貫教育を推進するための学校施設の在り方について検討し、方向性について提言するものである。組織も、検討の幅を広げるために、様々な立場の方に参加していただいた。方法については、多面的な視点で考察したということが記載されている。教育委員会主催の意見交換会や保護者説明会の中で検討内容の周知を図る、ということも記載している。 ・（5～6ページ）この会の経過が記載されている。第1回は、市教育委員会による情報提供ということで①～④、そして協議検討のまとめという形になっている。 第2回からは、成果として得られたことが記載されている。第3回が、児童・生徒数の減少	

- や、校舎の老朽化の状況を確認した。
- ・(7ページ) 城東学園のいくつかのデータを記載した。
 - ・(8ページ) 第4回では、城東学園の一貫教育研究について、校長先生から現状の報告がなされた。その後、グループ協議を行い、意見をまとめた。第5回では、公共施設マネジメント室長から公共施設管理の考え方について説明がなされた。
 - ・(9～10ページ) 今までの検討を踏まえての委員の意見を記載している。この回では、市の公共施設の現状と課題について理解が深まった。また、一人一人に発言いただき、提言の方向性として、施設一体型又は隣接型の小中一貫校にほぼ決定した。第6回目は、中央小の視察をした。中央小を参観した感想を述べていただいた。また、城東学園の将来、教職員について、地域意見交換会等について御意見をいただいたことを記載している。
 - ・(11ページ) 成果として、新しい学校の施設での教育環境についてイメージすることができた。提言の方向性として施設一体型又は隣接型の学校とすることを決定した。第7回は、報告書案について検討を行った。報告書の原案について、骨子は提案のとおりでよい、ということだった。以上を踏まえて提言ということになる。
 - ・(12～13ページ) 提言を最初に示した。「城東学園の地域性や歴史・現状を踏まえ、小中一貫教育を推進するためにふさわしい学校の在り方については、小中一体型または隣接型の学校を整備すること」とした。前回は小中一体型としたが、隣接型の意見もあるので、そのような文言とした。施設一体型または施設隣接型という表現でよいのではないかと思います。皆さんから御意見があるようであれば変更する。
 - ・本委員会は、一貫教育をより推進するための施設の在り方について、城東学園の小中一貫教育研究、国や近隣市町の動向、学校施設の老朽化、児童生徒数の推移、財政状況等多面的な視点から検討して、その方向性を協議してきた。検討委員会での検討の体系を示すと下図のようになる。検討の視点として1から7としてまとめた。
 - ・城東学園の一貫教育研究、次に国や市町の動向、校舎の老朽化、施設の形態、児童生徒数の推移、1学年複数学級を有する学校への視察、そして公共施設マネジメント、これらの検討をしながら、地域意見交換会や、学校視察、保護者説明会があった。以下、視点について説明している。
 - ・まず1点目の城東学園の小中一貫教育研究について、概要とか進捗状況、現段階における研究の成果や課題について理解を深めるために、城東中学校長から説明を受けた。城東学園の子どもたちの良さ、課題がある。城東学園の目指す子ども像を設定し、研究の重点としては、コミュニケーション力として、それぞれの発達段階におけるコミュニケーション力が何なのかを明確にしながら、教育活動に取り組んでいる。城東学園では、コミュニケーション力を身につけ、確かな学力、豊かな人間性を育成するために検討・実践を行っている。検討にあたっては、教職員が様々な交流を図り、交流を通して城東学園の教育を共に考えながら力量を高め合っている。現在、英語と道徳、生活科等の教育計画を検討しながら、小中学校で共有、実践して系統的な指導に生かしている。交流活動として小学校間の交流をいくつか行っている。
 - ・(14～15ページ) 小中学校間の交流、小学校の4年生が城東中の学校祭に参加して、交流を行ったことを記載している。成果として小学校から中学校への入学がスムーズになり、中1ギャップの緩和が図られている。また、人間関係のトラブルが少なくなっている。一方、課題として、移動時間や移動手段の確保が必要であるし、教職員の打ち合わせ時間の確保が必要である。交流の拡大や乗り入れ指導をしていきたいが、現状においては課題である。こうしたことから、目標や教育課程を定めて様々な成果を上げている一方で、課題も明らかになり、そのために一体型校舎にしていくことが望ましいとの意見が出された。これは、栄川中学校区で研究が行われた時に、栄川中学校と東山口小学校は距離的には数百メートルしか離れていないが、授業に行きたくてもその数百メートルが大きな壁になっていた、ということ踏まえると、中学校の先生が小学校の授業に参加するような乗り入れ授業を行うときは、距離というのは大きな課題となる。
 - ・国や近隣市町の動向はあまり深く触れなかったが、報告書には入れた方がよいと思い記載した。小中一貫教育というのは、実際の取組が10数年間にわたって蓄積され、顕著な成果が明らかになり、義務教育学校が設置できるように学校教育法という法律も改正された。それに伴って、文科省が手引きを作成し、小学校の教科担任制や乗り入れ指導等の具体的な方策が示された。現在、小学校の高学年における教科担任制や乗り入れ指導が可能になってきてい

る。平成30年度には事例集を発行し、一貫教育を実施している全国の学校の事例を紹介している。また、近隣市町、県内においても多くの市町で一貫教育を推進している。施設一体型の学校について、中学校の教員が小学校の授業の一部を担当するなど、教員の専門性を発揮しやすくなり、子どもたちの確かな学力の向上につながることを期待できる。外国語やプログラミング教育が行われる中で、中学校教員の専門性を生かした授業が大きなメリットになるのではないかと。一方、課題としては、9年間の教育環境の変化が少ないことや、小学校6年生のリーダー性の向上を如何に発揮させるかが課題とされている。

- ・(16ページ)「視点3 校舎の老朽化」について、老朽化の表は何度ともご覧いただいたが、土方小のプールを除いて4小中学校の校舎、体育館、プールの老朽化が進んでいる。特に土方小の校舎は55年も経っていて経年劣化が顕著であることが分かった。
- ・「視点4 施設形態」について、それぞれの良さと課題を協議した。施設一体型は、小学校と中学校が同一敷地内にあり、一体あるいは併設している。文字通りの一体型の校舎だけではなく、扉の向こう側が中学校とか、渡り廊下等で傘をささずに移動できるようなものを含めて施設一体型としている。隣接型は道などを隔てて学校の門が違う型。施設分離型は現状の型。それを比較してみると下のような表になる。施設一体型では、中学校の教員の専門性を生かした乗り入れ授業が可能になる。隣接型ではほぼ不可能ということになる。合同行事は、行いやすい、比較的行きやすい、行いにくいということそれぞれまとめた。
- ・(17ページ) それぞれの施設形態の考え方とその特徴となっている。一体型は施設の共有ができる。小中の教職員で一つの職員室を共有し、行き来しやすい。児童生徒の交流、教職員の意思疎通が図りやすい。9年間を見据えた教育課程の編成が行いやすい。児童生徒が日常的に交流することができる。隣接型では、比較的近い場所で生活できるが、移動時間が多少かかるために、中学校教員が授業を担当することは難しい。合同事業は一緒に行いやすいが、移動時間が多少かかる。分離型は、離れた場所で生活するため、合同の教育活動は当然ながら限定される。
- ・「視点の5 児童生徒数の推移」について、グラフは国勢調査の結果から国の機関が出した人口推計結果を基に、掛川市における人口減少率を算出して、城東学園に合わせて示したものである。児童生徒数は年々減少し今後少子化に伴い、ますます子どもの減少が推測される。今後、このグラフよりも下降するスピードが速いかもしれない。3小学校とも単学級だが、やがて複式学級になる可能性がある。少子化に伴う対策を考える必要があるとまとめた。
- ・「視点6 複数学級を有する学校施設」については、1学年が複数学級あり、校舎が新しく、最新の教育施設が整っている中央小学校を視察した。校舎は採光の工夫がなされ、廊下や階段のスペースも広く取られており、ゆとりを感じた。その中で子どもたちの活発な雰囲気を味わうことができた。職員室がガラス張りで来客の確認が容易にでき、防犯面にも優れていた。教室のホワイトボードは、写真資料やデジタル教科書を容易に映し出すことができICT環境が整っていた。城東学園の児童生徒を合わせると600人程度の規模で、施設一体型になった場合には中央小学校とほぼ同じくらいの規模になり、イメージしやすい視察になった、ということでもまとめた。
- ・「視点7 公共施設マネジメント」についてであるが、掛川市の施設は昭和50年代以前に建設されたものが多く、今後、維持更新に多額の費用がかかることが予想される。一方人口減少に伴って税収の減、高齢化による扶助費の増加が見込まれる中で、施設の維持更新に十分な金額が充てられなくなるおそれがある。今後、市が施設管理を行っていく上での方針が、保有量の適正化と長寿命化と運営管理の適正化ということが示されている。学校施設においても例外ではなく、新たな学園づくりを検討する上でも、この方針を踏まえて検討をしていく必要がある。
- ・以上、七つの視点から検討した結果として、再度記載しているが、城東学園の小中一貫教育を推進するためにふさわしい学園の在り方として、できる限り小中一体型または隣接型の学校を整備することが望ましいと提言すると書かせていただいた。
- ・分かりやすく書くというのがなかなか難しく、今読みながらも、ここの文章は変えた方がいいなという部分があったりもしたが、一応このような形で皆さんに提示したい。

【委員長】

- ・12ページの提言の部分、「城東学園の在り方については、施設一体型または施設隣接型の学校」というところの表現が、土地や予算の問題を考えた時には、この表現くらいがよいので

はないかという感じがする。現状の城東学園の子どもの教育のことを考えたら、施設一体型という文言にした方がよいのではないか、ということもある。その部分について御意見をお聞かせいただきたい。

- ・この報告書が教育委員会に行って、教育委員会が提言を受けてまた検討をすると思うので、これがそのまま採用されるということではないと思う。検討委員会の決意や思いをどのように見せるかということが必要である。

【委員】

- ・あくまで報告書であるので、「施設一体型または施設隣接型の学校を整備すること」でよいのではないか。

【委員】

- ・この文章を読ませていただいた中で「小中一体型の学校」「施設一体型」「一体型の校舎」概ね3種類くらい出ているが、それぞれ同じものなのか。どれか一つに揃えた方がよいのではないか。

【委員長】

- ・これまでの検討において、施設一体型にしよう、という話しはしてこなかった。施設一体型もしくは施設隣接型というところでやってきたので、話し合いがこのような形であったので、原案のとおりでよろしいか。
- ・校舎形態の表現については再検討させていただく。

【委員】

- ・提言の最後の部分に「できる限り」という文言があるが、切ってもよいのではないか。

【委員長】

- ・最初の部分には「できる限り」は入っていないので、ここも「できる限り」は削除したい。
- ・次に資料の部分を見ていきたい。
検討委員会の記録として、第1回から第8回までこのような形で簡単に記載してある。地域意見交換会、保護者説明会についても、12ページで図示しているので、ここに記録を載せている。
22ページは検討委員会の名簿を載せている。
23ページは城東学園の現状、学校の状況や児童・生徒数を載せている。
24ページは城東学園の歴史を、時代時代の中で動いている状況が分かる。
26ページはこの委員会の規程を載せている。
以上、報告書という形でまとめさせていただいた。
- ・全体をとおして意見等あるか。
《特に意見なし》
- ・この報告書でいかせていただく。
- ・この委員会の感想、夢、報告書の感想を委員の皆さんから一人ずつお願いしたい。

【委員】

- ・最後にうまくまとまったのではないかな。経緯もよく分かるし、わくわくするようなことも入っていて、これからの子どもたちが楽しく学校生活ができるような形になっていくのを少しイメージできた。

【委員】

- ・この検討委員会に昨年5月から入った。地域検討委員会に多くの部門の方が参加して検討してきたが、細かく説明されているが、私が見る限り最初に小中一貫教育ありきで、それに沿って説明がされている。子どもたちの権利がないがしろにされているのではないかな。最終的には、生徒の数や切磋琢磨して教育を受けるのがいいと書かれているが、私としては今の学校が地域の人に守られて進んでいく今の形態が一番よいのではないかなと思っている。コミュニティの問題も小学校を中心に行われているし、こうした現状を続けて欲しいと思う。

【委員】

- ・自分も1年間だけ参加したが、新しい学校ができるということを大変楽しみに思っている。新しい学校ができたら地域の皆さんの力を借りながら、より良い学校になっていくといいなと強く思った。

【委員】

- ・方向性が決まってきたので、住民の方、城東の方々に御理解をいただくのが私の使命だと思っている。それに向けて腹を据えて頑張っていきたいと思う。議会の会議の中で、連雀の出

張所がなくなるという話で、総論賛成各論反対という話になってくる。この件に関しても
そうなる可能性は十分にあると思う。私も、掛川市、城東の将来がどうあるべきかをしっ
かりと見据えて皆様の声を届けていきたいと思うし、皆さんの中で決まったことを城東の住
民の方々に御理解いただけるように邁進していきたい。

【委員】

- ・30年以上教員をしていて、初めて学校を作る、新しい学校を作るという会に参加させてい
だき、とても有意義な8回の会だったと思う。いろいろな夢を考えながら、語りながら1つ
のものを作り上げていくという喜びを実感できた。掛川市では来年度から学校運営協議会(コ
ミュニティ・スクール)が始まるということで、そこでも、地域あつての学校ということが
より強く打ち出されてくる。新しい学校についてもそうであるし、来年度の学校についても
皆さんと一緒に子どもたちを育てるために尽力していきたいと思うので、御協力をお願い
したい。

【委員】

- ・城東学園の子どもたちということで、「城東を愛し、未来をたくましく生きる子ども」とな
っているが、そういう教育を受けて地元に残るのかという心配はある。僕らも小学校を卒業
して何十年も経つが、僕らの同期で高校を出て大学に行った人で地元に残っているのは先生
だけである。企業に就職した人、頑張っ教育を受けた人はほとんど地元には残らないとい
う現実がある。今でも大学を出て近所に勤めるところがなくて浜松まで通っている人もい
る。せっかくいい教育を受けても、後どうなるのかという心配はある。

【委員】

- ・この場で皆さんの御意見を伺って、研究の時にはお聞きできなかったような御意見をたく
さん聞かせていただいた。とてもよかったと思う。そういった皆さんの思い、願いを最大限生
かしていけるような、そういう研究をしっかりとやっていかないといけないと思った。

【委員】

- ・一番最初に出席したときにいろいろな意見があつて、本当にまとまるのかということが頭に
あつたが、本当にきれいにまとまった。後はこれが具体化されることを望む。

【委員】

- ・2月に地域説明会があるというお話で、その時に今までの経緯をぜひ丁寧に説明していただ
きたいと思っていた。報告書の案を見て、とても分かりやすく作られていたのでよかったと
思う。これから3地区の地域の人たちがより協力しながらやっていくという課題もあると思
うので、皆さんで力を合わせてやっていけたらと考えている。

【委員】

- ・地域検討委員会の報告書がまとまって、やれやれよかったということで終わっては困る。や
はり、報告書を生かしていただいて今後進めていただきたい。

【委員】

- ・私は佐束小のOBで、3ヶ月に1回くらいコーヒータムという名前で同級生が集まる会を開
いている。みんなで話をしている中で、先生に叱られたこと、立たされたこと、殴られたこ
となどいっぱい、昨日もしてきた。昔は先生とよく遊んだこともあつた。去年、NHKのド
キュメントで駅の子というのをやった。戦争当時、東京では防空壕がなくて駅の地下道に避
難した。親も子もバラバラになって、行く当てもなくさまよって逃げてきた。こういう人た
ちが大きくなって戦後の復興を支えてきた。教育は施設がどうこうではないと思って、この
委員会にも携わってきた。集団就職で東北や九州から来た人たちは、みんな中卒で戦後の復
興を支えてきた。学校の施設がどうのこうのではなく、本人たちをやる気にするためにどう
すればよいかということを議論していきたいと思っている。

【委員】

- ・皆さんといろいろな意見を交換させていただいて、いい報告書が出来上がったのではないかと
思っている。これをもとに実現できるように、地域住民の一人として意見を出していけた
らと考えている。

【委員】

- ・城東学園が掛川市、静岡県モデル地区として、一日も早く校舎建設に向けて前進すること
を期待している。

【委員】

- ・ 報告書を見させていただいて、初めのころに色々あったことを思い出していた。地域意見交換会があったり、今まで聞いたことのないような意見を聞いたりできたので、大変だったなという思いもしたが、こういう報告書ができて終わったなという思いもしている。いろいろな意見を聞かせていただいたり、中央小のような普段見ることができないような場所に行かせていただいたり、全国の話聞かせていただいたりしたので、いい経験をさせていただいてありがたかった。この話がきちんと形になることを願いながら、1人のお母さんとして頑張りたいと思う。

【委員】

- ・ この委員会に参加して、学校や子どもたちがこんなにも地域に見守られているということを改めて実感して、とてもありがたく思った。より早く、いい環境で学べるように期待したい。

【委員】

- ・ 検討委員会に参加できて、地域のこと、子どもたちのこと、今の現状がすごくよく分かった。新しい学校ができることを望んでいる。

【委員】

- ・ 城東地区の子どもたちの将来のことを考えながら、皆さんと話ができた貴重な時間だったと思う。話し合いの中で、課題や不満はまだまだあると思うが、期待の方が自分の中では大きいので、地域説明会でもわくわく感が伝えられるとよいと思う。

【委員】

- ・ いつも思うのは、小中一貫教育イコール統廃合ではないということを地域の方に分かっていたらいいと思う。この検討委員会の問題点の一つだと思っている。統廃合ありきで進んでいるのではないかと地元の方の声がすごく聞こえてくるが、本当はそうではない。私はこの検討委員会の前段階の第2ステージ検討委員会にも参加していて、地元の学校がなくなってしまったという悲痛な叫びを聞きながら、それでも子どもたちは新たな学校の環境で頑張っている。本当によい環境になった、地域の苦しみを乗り越えた何かが得られている、という話を聞きながら現在のこの会に参加している。
- ・ 城東地区の学園化構想は昨日、今日始まったものではなくて、私の上の子の時から携わり、だんだん先生と子ども、横と縦のつながりが見えるようになってきたのが現在ではないかと考えている。統廃合なんだということよりも、今の掛川市の財政でこれからの学校をどこまでやっていけるのか、地震が来て中小、佐東小、土方小に逃げまじろうとなった時に学校が壊れていたということでは絶対にいけないと思う。地域のコミュニティの場としても徹底してよい環境を残しながら、子どもたちの新たな環境へつなげていって欲しいし、新たに環境が整ったのであれば、掛川市でも城東地区が過疎化するような地区ではなく魅力のある地区として、戸数が増えたり、戻ってきてくれる若者が増えたり、そういう魅力ある町になるようにぜひ皆さんで協力していけたらと思う。
- ・ 説明会には、私たち世代、おじいちゃんおばあちゃん世代、今子どもを育てている世代の温度差がすごくあるので、若いお父さんお母さん世代に来ていただきたい。自分の出た学校、例えば大きな学校を出た方と、私たちのようにずっと佐東小や中小ですごしてきた人とは違う考えを持つ人たちが今子育てをされているので、そういう方にこの場にいらっしゃる方が声をかけていただいて、会場に来ていただいて、そういう方の意見を吸い上げていただければ現実が見えてくるのではないかなと思う。私も地域の説明会に何カ所か出て、若いお父さんお母さんのお話を聞いたが、学びの場に子どもの数が少ないということにすごく違和感があるという意見が結構出ていた。実際私たちでは分からない意見もあるので、そういうことも吸い上げていただきたいと思っている。

【委員】

- ・ この検討委員会に参加して、学校の先生方、地域の方、保護者の方の意見を聞いて、最初は不安や戸惑いがたくさんあったが、一年ちょっと参加させていただいていろいろ勉強させてもらった。課題はたくさんあると思うが、新たな学園づくりが見えてきて今はとても楽しみにしている。

【委員】

- ・ 10歳と6歳の子がいて、子どもを育てる親の立場から参加させていただいた。城東学園がこの検討委員会で決まったことを基に、素敵な未来になることを望んでいる。

【委員】

- ・一年前は全然分からない状態でこの会に参加させていただいた。自分も本当にいろいろと勉強させていただいたと思っている。

【委員】

- ・これからこの検討委員会で決まったことを、地域の人たちがどのように理解をして、子どもたちにどのように影響してくるのか、学校がどのようになっていくのかを親として見守っていきたいと思う。また、地域の説明会にも小さい子どものお母さんたちにもっと関心を持ってもらえるように発信していけたらと思っている。

【委員】

- ・城東学園というのがよく分からない状態から参加させていただいた。委員会に参加し、子どもたちのこれからのことや、学園の今の現状を知り、これからの将来のことを考えることができて、とてもよかったと思う。この会で決まったことが、皆さんに伝わっていけばよいと思う。

【委員長】

- ・この報告書でこの会は終わりになる。この検討委員会はこれで終わりになるが、また次のステップ、ステージに進むことになる。やがて建設に進み、子どもの姿に表れてくると思う。「教育とは」の後に続く言葉として、いくつか考えられるが、私は、「教育とは夢を語り合うこと」、というのが好きな言葉である。様々な問題があるにせよ、子どもたちの将来のことを考えながら、皆さんがお話いただいたことを聞き、やはり「教育とは夢を語り合うこと」と思った。これでこの会は終わりになるが、今後、建設になっていった時に、このようないろいろな立場の皆さんで話し合っていくのがよいのではないかなと思う。そういう中に、今の小学生、中学生に、どんな学校がいいか聞いてみるのもよいのではないかな。子どもたちの代表も入ったりするのも面白いなと思いながら、皆さんの話を聞かせていただいた。次のステージに向かう上で、一応この報告書をもって、この会、このステージは終わりとなる。ありがとうございました。

6 連絡事項

- ・今後の予定について
地域説明会 2月23日（土） 大東北公民館
※会場では上記のようにお知らせをしたが、都合により3月に延期することになった。

【委員長】

- ・この報告書は印刷されることになると思うが、皆さんのところにはどのような形で届くのか。

【事務局】

- ・郵送等で皆さんのところにお届けしたいと考えている。

【委員長】

- ・可能であれば、複数送っていただいて、できればどなたかのところに、こういうのを作ったんだよとPRしていただくのがよいのではないかなと思った。皆さんがこれくらい欲しいと言っていたのであれば、その分も配布してくれるか。

【事務局】

- ・お分けしたいと思う。

【委員】

- ・学校へデータを送っていただいて、説明会の前に保護者に配布するというのはどうか。

【事務局】

- ・修正を行った上で学校へデータは送付させていただくが、説明会前の配布については御遠慮いただきたい。

7 閉会

【委員長】

- ・皆様の御協力をいただきまして、無事終わることができた。委員長の役を解かせていただく。ありがとうございました。

【教育長】

- ・皆さんありがとうございました。8回というとならないようにも思えるが、一年かけてやって

いただいた。今回、新しい学園づくりということで、いろいろな地区の事情、子どもの実態や地域の事情も多少違って、皆さんのお立場から御意見をいただいて本当にありがたいと思っている。

- 今後報告を受けて、教育委員会はこれからが戦いになる。これから新しい城東学園を作っていくということで、企画政策課の課長も来て、皆さんの御意見を直接聞いていただいた。城東学園だけではなく、市内31校の小中学校全体を見た中での城東学園、そして、公共施設マネジメントの説明もさせていただいたが、財政論も踏まえて新しい学校づくりを進めていかないといけない。今回の地域説明会はあくまでも報告の説明であって、今後建設に進むことになれば新たに地域への説明をしていかななくてはいけない。これからが教育委員会として、城東学園の子どもたちの未来のためにやりたいんだということを、この報告書を基に頑張って進めていきたいと思っている。皆さんの大きな関心は、どこに学校を作るのか、というのが一番だと思うが、教育委員会としてもきちんと検討して、市長部局、財政的な面も絡めてやっていかないといけない。いろいろな視点から検討をして、最終的な方向性を出していきたいと思っている。そういう意味でこの報告書は貴重な報告書であると思っている。これが実現できれば、掛川市としては堂々と全国に発信できる学園になると思っている。掛川市のまちづくりの中で、市長はコンパクトシティということをよく話すが、城東学園は一つの街づくりの中でできており、その中で、さらに施設一体型ということになれば、核となる学校、新しい学校ができることになる。これは堂々と発信できるものになるのではないかと思う。この実現に向けて、教育委員会としては次のステージに向かっていきたいと思うので、様々な立場から御支援、御協力をお願いしたい。